

実践事例 1 単元の導入での学習問題 I づくり

授業の実際 第6学年 「新しい日本、平和な日本へ」（第1時／全7時間）

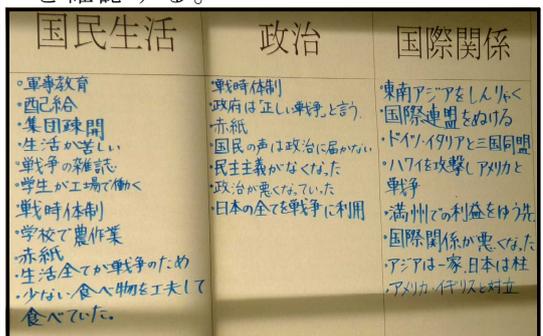
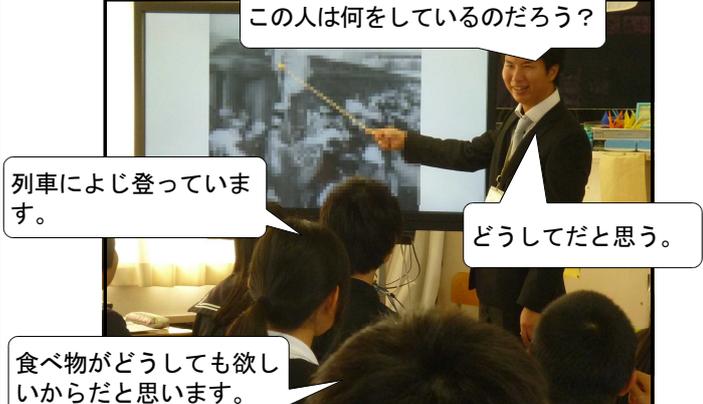
本時の目標

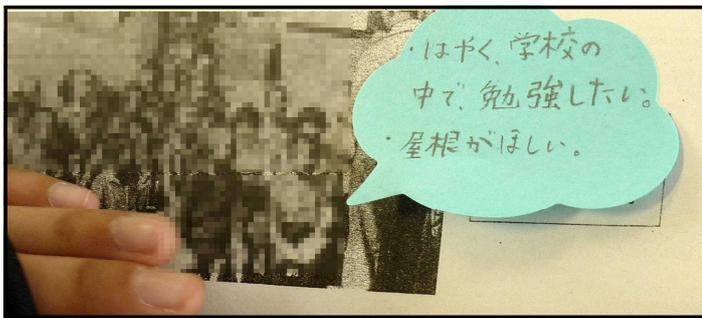
複数の資料から分かることや疑問に思うことを関連付けながら、学習問題 I を考え、視点（国民生活、政治、国際関係）を基に学習問題 I に対する自分の予想を立てることができる。

（社会的な思考・判断・表現）

本時の授業の様子

※写真資料は、著作権及び肖像権に配慮し、処理しています。

学 習 活 動	教師の働き掛け(○)、授業改善の手立て ([])
<p>1 前単元の学習内容を振り返り、本時のめあてを確認する。 〈学級全体〉</p>  <p>前単元「長く続いた戦争と人々の暮らし」をまとめた掲示物</p> 	<p>○意図的に児童を指名し、前単元のまとめの文章を発表させ、前単元の学習内容を確認した。</p> <p>国民生活は、全て戦争のためにあり、配給が行われるなど生活は苦しかった。そして、軍事教育が行われるなど現在では考えられない生活であった。政治も、戦争第一で考えられており、大正時代までに築き上げられた民主主義ではなくなっていった。国際関係は、日中戦争や満州事変がもとで国際連盟を抜けた。そして外国と対立を深めた。その後、太平洋戦争を起し、アメリカやイギリスとも対立し、国際関係は悪くなるばかりだった。そして、1945年8月15日に日本はポツダム宣言を受け入れ敗戦国となり終戦となった。</p> <p>児童の発表内容</p> <p>発問：『『国民生活』『政治』『国際関係』の視点で調べましたが、共通しているのは何でしたか。』 児童の反応：「どれも、悪くなるばかりでした。」</p> <p>○終戦時、空襲で全国的に被害を受けていたことを視覚的に捉えさせるため、1945年の終戦直後の日本各地の写真を提示し、共通点を探させ、本単元の始まりとなる日本の様子をイメージさせた。</p> <p>提示した写真の場所 広島・長崎・東京・仙台・久留米</p>
<p>本時のめあて 学習問題をつくり、学習の見通しを立てよう。</p>	<p>[視点を示して、スモールステップで段階的に考えさせる]</p>
<p>2 終戦直後の資料を基に、当時の人々の思いを考える。</p> <p>(1) 資料から当時の国民の思いや願いを予想し付箋に書く。〈個人〉</p> 	<p>○活動の見通しがもてるように、1枚の資料写真を提示し、写真を読み取らせながら、写っている人々思いや願いを自由に予想させていった。</p> <p>○資料の読み取りに対する意欲を高め、自由に発言できるように、資料写真が新聞記事に載って、題名が「買い出し列車」であったことを伝え、児童が予想しやすいようにした。また、児童の回答に対して、段階的に考えさせていった。</p> <p>○1枚の読み取りの例を基に、他に3枚の資料写真を見せ、書くことへの抵抗感を減らすために、思いついたことを自由に付箋に書かせ、ワークシートに貼らせていった。</p>



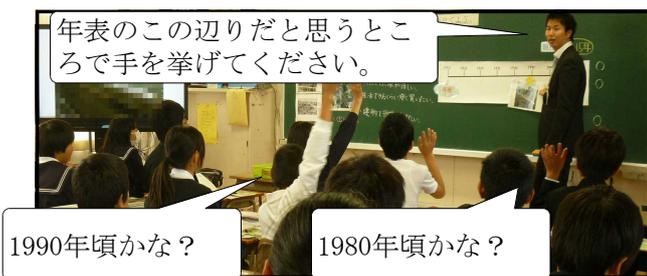
「青空教室」に児童が付箋を貼ったワークシートの記述

(2) 個人で考えた当時の国民の思いや願いを全体で出し合う。



3 国民の思いや願いが戦後何年で達成されたかを予想し、疑問を出し合い、学習問題を考える。
(学級全体)

(1) 東海道新幹線開通当時の写真がいつのものを予想する。



(2) 1964年であったことを知り、疑問に思ったことやもっと調べたいことをワークシートに記述し、出し合う。



提示した資料写真とまとめた人々の思いや願い

- ①「買い出し列車」…食べ物が欲しい。
- ②「バラック小屋」…ちゃんとした家が欲しい。
- ③「ヤミ市」…生活ができるくらい、安く買いたい。
- ④「青空教室」…建物で勉強したい。

○終戦直後の様子について考えることができるように、思いや願いを出させた後、その根拠を問い返した。[理由や根拠の問い返し]

問い返した例(ヤミ市の資料写真より)

児童「高いけれど、食べるものが欲しい。」
 教師「どうして高いって分かるの。」
 児童「資料の解説に書いてあります。」
 教師「高かったら買わなければいいじゃない。」
 児童「生きていくためには買うしかないよ。」
 教師「なるほど、まとめるとどうなる？」
 児童「生活できるくらい安く買いたい。」

○当時の国民の思いや願いが、現代の世の中では達成されているのかどうかを考えさせることで、戦後70年という期間を大まかに捉えさせ、学習活動3に児童の意識をつなげた。

[児童の予想と社会的事象との感覚のずれを生じさせる学習活動]

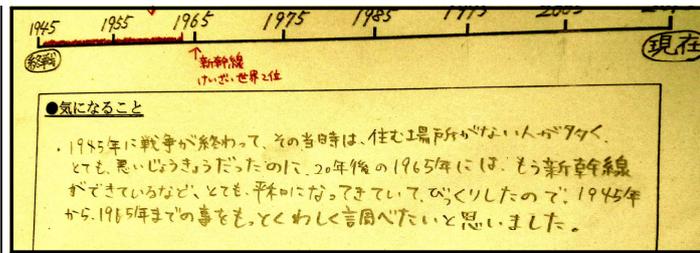
○戦後の復興が早かったことを実感させるために、現在の様子に近い写真資料「東海道新幹線開通当時」を提示し、年表を使って写真がいつのものを予想させた。

○正解を知っている児童がいることが予想されたため、現在から年表をさかのぼりながら、クイズ形式で予想を出し合わせることで、児童の判断を揺さ振りながら時間の長さに着目させた。

○児童の反応を見ながら、多かったところに印を付けながら学級全体で予想を出し合っていた。

○正解を告げることで、「えっ!」「早い!」などの驚きの声を取り上げ、その理由を問い返し、もっと遅いと思ったという考えを引き出した。

○さらに、戦後20年に着目させるために、「東京タワーが建った写真」や「GDPが世界第2位になる」などを同様に予想させ、同様に驚きの声を取り上げ、気になる時代を絞り込んだ。

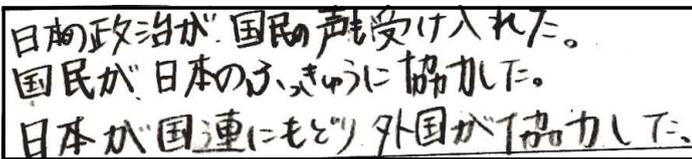
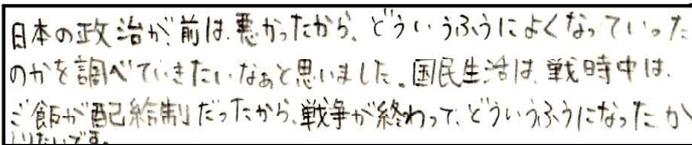


児童が記述したワークシート

○児童が疑問に思ったことやもっと調べたいことを発表させた。また、発表に対してどう思うかを他の児童に問い返し、違った疑問や調べたいことを出し合わせ、児童の言葉を使って学習問題Ⅰをつくった。

児童と共につくった学習問題Ⅰ「終戦から20年日本はどのようにして発展してきたのだろう。」

4 学習問題Ⅰに対して予想し、自分の考えをまとめる。(個人)



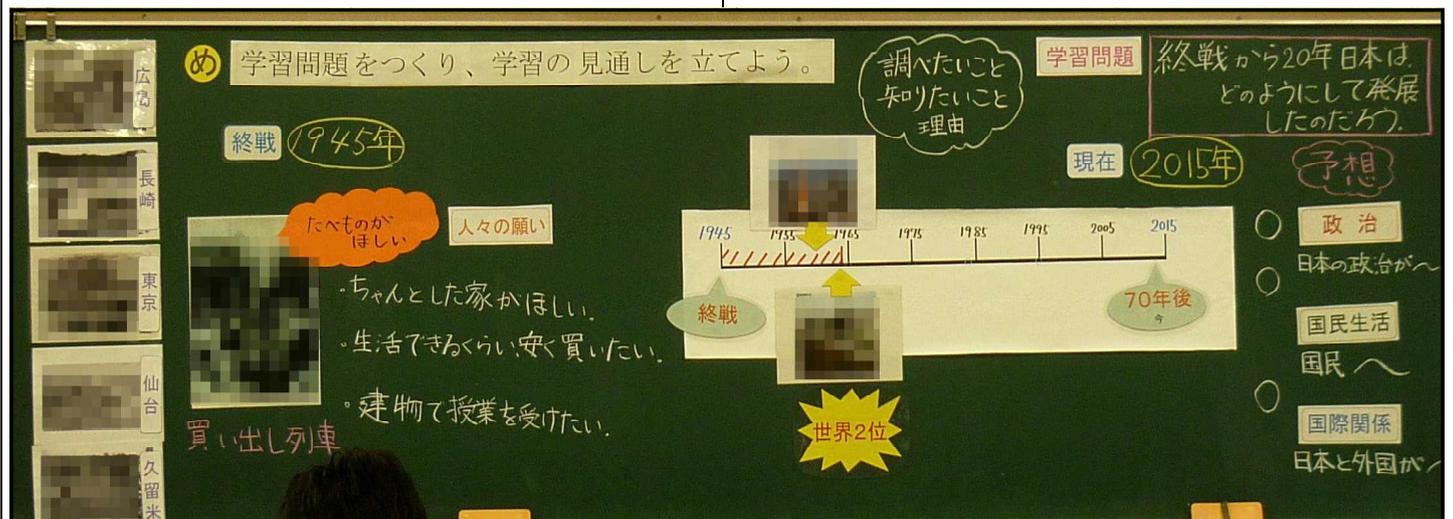
児童が記述したワークシート

○これからの学習の見通しをもたせるために、学習問題Ⅰに対する予想を、前単元での「調べる」視点「国民生活」「政治」「国際関係」を基に記述させた。【評価】

【努力を要すると判断した児童への支援】

板書や視点を基に、前単元の学習を想起させる問い掛けや書き出しを示すことで、予想を促した。

○数名の児童に発表させ、これからの学習についての見通しを確認し、本時の学習をまとめた。



本時の最終的な板書

本時の成果と課題 ○…成果、●…課題

- 「つかむ」過程において、学習問題Ⅰを児童と共につくる手立てとして、児童がもっている感覚からの予想と事実との間にずれを生じさせるために、年表を使った学習活動を仕組み、疑問や驚きを引き出すことで、児童の問題意識を高めるようにしたことは、児童の自主的な学びをつくることに効果的であった。
- 資料の読み取りの際に、典型的な事例を取り上げ、視点を「人々の思いや願い」に絞って示し、スモールステップで段階的に個人で調べるように指導したことは、児童の追究意識を継続させ、適切な情報を知る手立てとして有効に働いた。
- 答えが1つにならない発問を教師が意識して行い、児童の返答をつなげたり、理由や根拠を問い

返したりしたことは、児童の思考を深めさせることにつながった。

- 児童の疑問や驚きを引き出すために、戦後20年を早いと感じさせることを重視した。しかし、現在から遡って考えさせた際、早いという表現をさせることに固執したため、児童が、先生はどんな答えを期待しているのかと思考する姿が見られた。児童の思考をつなぐためには、どう問い掛け、どのように問い返すかをしっかり予想し、吟味しておく必要がある。